

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 105 回

『ヒューマニズム & インターナショナリズム ～ 見識と教養 ～』

2022年4月15日 第111回日本病理学会総会(神戸コンベンションセンターに於いて)に向かった。想えば、筆者は、第99回日本病理学会総会の会長を務めたことが鮮明に思い出された。新幹線の中で、富山県立小杉高等学校の卒業生から送られてきた『若き射水郡長南原繁の生涯』を拝読した(画像)。富山県立小杉高等学校は「1919年 射水郡立農業公民学校として開校。農業技術者でなく、農業と結びついた勤労を尊ぶ公民の養成を目的として 南原繁らによって設立」と謳われている。

【自分の心の内を見直して 人間形成をもとめるヒューマニズム(人間性を大切にする考え方)や 世界平和のために国際協調を訴えるインターナショナリズム(国際協調の考え方)が、彼の考え方の中心にありました。—— 「生涯の師」と仰ぐ内村鑑三に出会ったのです。—— 郷土のためにつくす見識と教養をそなえた人間を育成しようという理想をかかげました。—— 時代の動きを正しく見抜くことができる 知性と感性を持った人でした。】と記述されている。

また、【「洞窟の哲人」とは、哲学者プラトンの本に出てくる、洞窟に住む哲人が、世に出て 世の中を導くという話からつけられたニック・ネームです。】とある。今回の『神戸の旅』は、大いなる「学びの復習の時」となった。

「若き射水郡長

南原繁の生涯」

